

岩波駅周辺 まちづくりの道しるべ

-まちづくりデザインノート-

岩波駅周辺 まちづくりの道しるべ
まちづくりデザインノート

令和5年3月

発行：裾野市 建設部
ウーブン・シティ周辺整備課

〒410-1192 静岡県裾野市佐野1059番地
TEL 055-994-9010/FAX 055-994-0272

令和5年3月

 静岡県
Susono City 裾野市

「岩波駅周辺まちづくりの道しるべ」について 02

1 これまでの経緯と岩波駅周辺の地域資源 03

2 原風景から見る地域資源と人々の生活 05

3 岩波駅周辺まちづくりの設計方針 07

4 全体イメージ 09

5 岩波駅周辺まちづくりの設計方針とエリアの考え方 11

6 エリアごとの設計方針 13

 1) 岩波駅周辺・交通結節点エリア 13

 2) 自然を活かした黄瀬川及び緑道等オープンスペースエリア 17

 3) 交流の入口となるウーブン・シティ周辺エリア 19

7 まちづくりとしての一体感を創出するためのデザインコード 21

8 まちづくりデザインの実現に向けて 27

9 段階整備計画図（参考） 31

10 岩波駅の広域案内図（参考） 33

「岩波駅周辺まちづくりの道しるべ」について

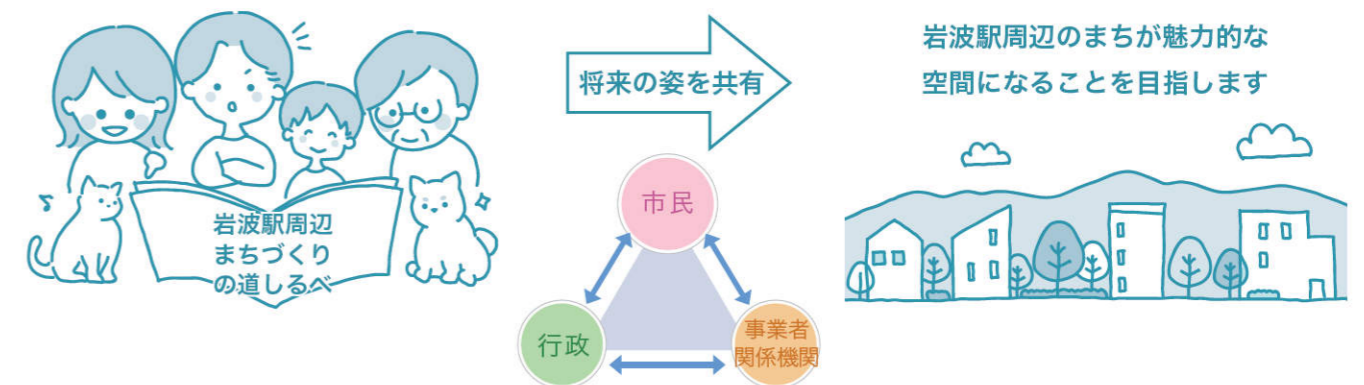
「岩波駅周辺まちづくりの道しるべ」は、岩波駅周辺地区まちづくりワークショップや岩波駅周辺地区まちづくり推進会議などの議論を経て、裾野市が作成した岩波駅周辺の「まちづくりデザイン」の基本的な指針です。

今後裾野市では、岩波駅周辺整備の具体化に際して、本書の設計方針やエリアの考え方などに沿って、関係機関と協議・調整を行いながら進めていきます。

地域住民・行政・事業者など本事業に関わる全ての人々が将来の姿を共有することで、岩波駅周辺のまちが魅力的な空間となることを目指します。

※本書に記載している「まちづくりデザイン」とは、施設の形状や色調といった目に見えるものだけでなく、空間の使い方や機能性、事業全体の進捗管理や供用後の管理運営を含めた概念を示しています。

※本書に記載されている名称や計画内容は2023年（令和5年）3月時点の情報を元にしており、計画内容や名称などについては変更する可能性があります。



1 これまでの経緯と岩波駅周辺の地域資源

これまでの経緯

ウーブン・シティの発表をはじめとする大きな状況変化も踏まえ、裾野市では 2021 年 1 月に第 5 次裾野市総合計画を策定し、「みんなが誇る豊かな田園未来都市すその」を将来像に掲げ、「次世代型近未来都市の形成」や「駅周辺等の拠点づくりと多様な世代の交流の促進」に向けた取り組みの 1 つに岩波駅周辺整備を位置づけました。また、2021 年 4 月に「裾野市北部地域まちづくり基本構想」を策定し、裾野市北部地域の各種計画を整理し構想としてまとめました。岩波駅周辺地区については、短期構想（2025 年度までの概ね 5 年程度）の整備に位置づけ、北部地域の交通結節点や交流の拠点を整備していくこととしています。

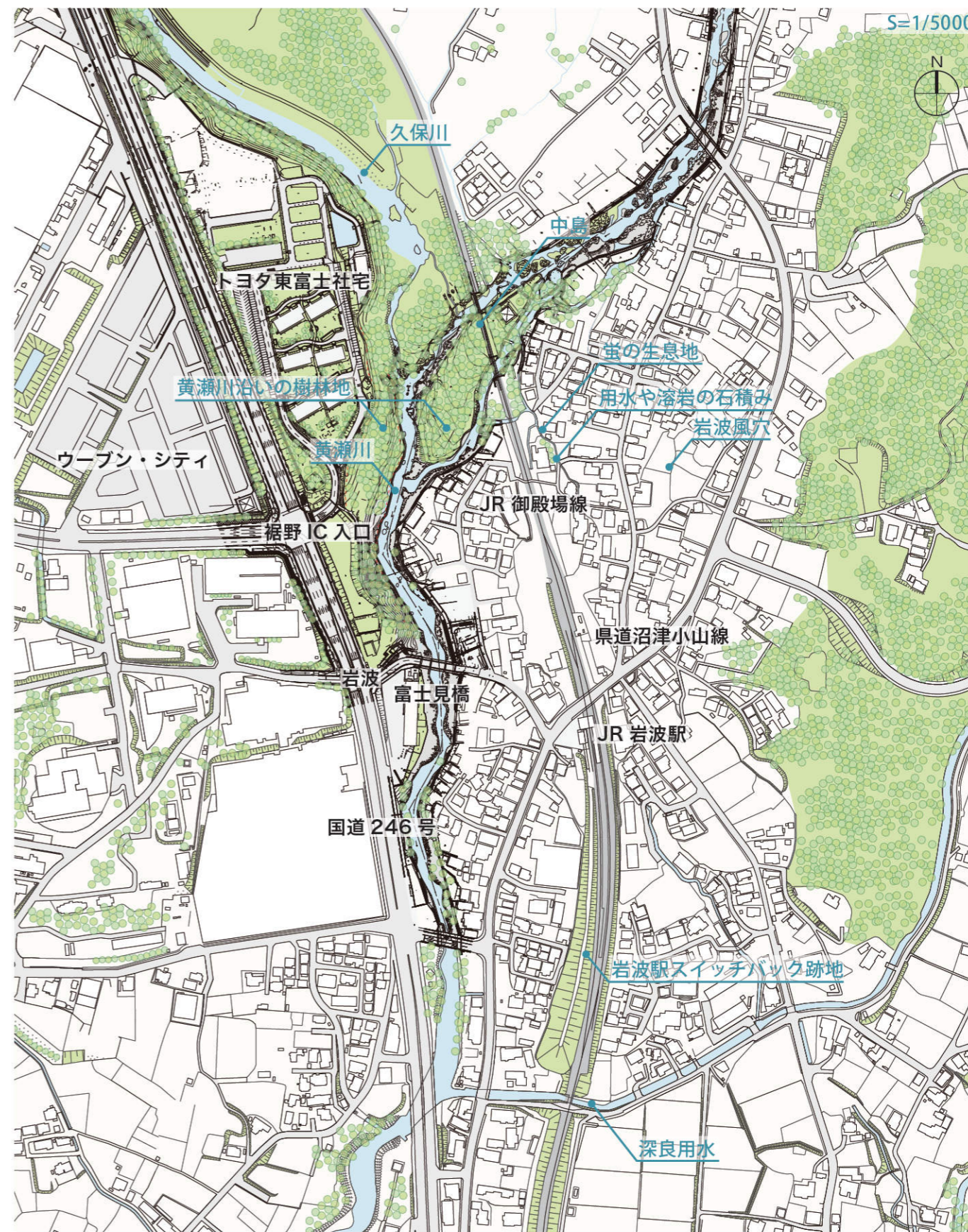
これらの経緯を踏まえ、2022 年 3 月に「岩波駅周辺地区まちづくり基本計画」を策定し、まちの将来像を以下の通り定めました。

「岩波駅周辺地区まちづくり基本計画」におけるまちの将来像
岩波らしい自然と未来技術でつながるまち

また「岩波駅周辺地区まちづくり基本計画」では、2031 年度までを短期整備計画と位置づけ、安全・安心の向上、交通結節機能の強化、黄瀬川沿いの区域での魅力の創出・情報発信等に取り組むこととしています。

岩波駅周辺の地域資源

岩波駅周辺には、黄瀬川等の自然景観を有するほか、用水や溶岩の石積みといった過去の営みの面影が残されています。岩波の自然景観や歴史といった地域資源を活用し、岩波らしい空間づくりを目指します。



2 原風景から見る地域資源と人々の生活

「まちづくりの道しるべ」は、岩波駅周辺の未来の姿を描くものでありますが、これまでの裾野（岩波）で暮らす人々の生活と共に培われてきた地域資源や風景を大切にしていきたいという思いを共有できるように当時の写真をイメージとして紹介します。

原風景の写真からは、裾野（岩波）で暮らす人々の生活には富士山の眺望や、富士山のすそ野における田園や用水路、黄瀬川の溶岩などが何気ない日常の中にあることが伝わってきます。世の中の状況が変化するなかであっても、地域資源や風景を、過去から現在、未来に受け継いでいくことができる岩波駅周辺のまちづくりを実現していきます。



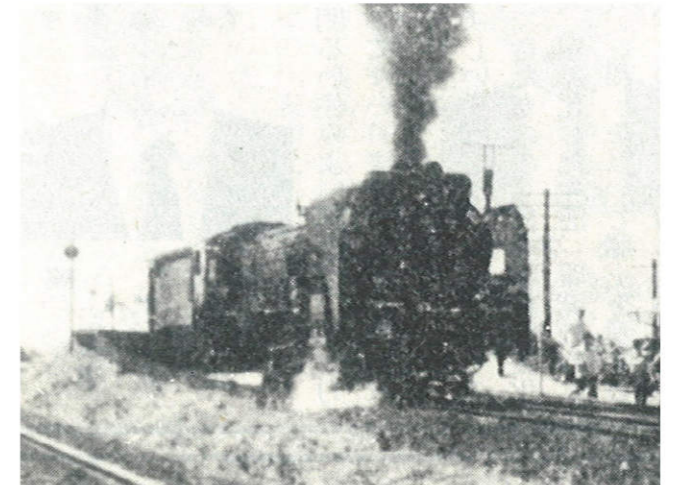
富士山とともにある暮らしの風景
富士山と茶畑の風景



緑豊かな農村風景
昔の農業の様子



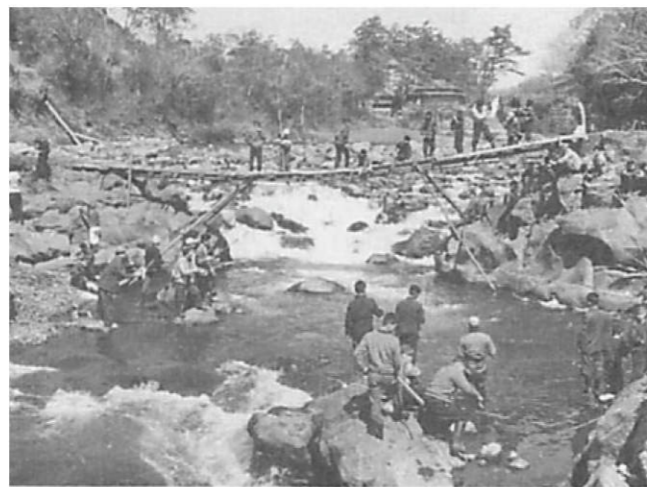
富士山や裾野の山々に囲まれた豊かな農業風景
茶摘みの様子



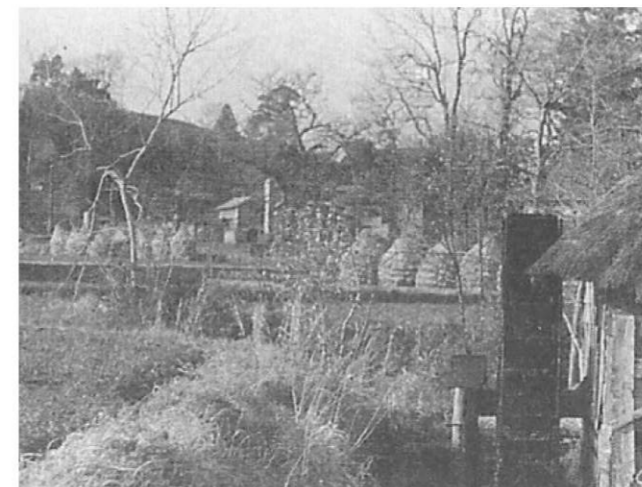
スイッチバック[※]と蒸気機関車のある風景
現在もスイッチバック跡地が残る



水田等の水辺の田園風景
畦道を歩く家族の様子



黄瀬川とともにある暮らしの風景
マス釣り大会の様子



水車のある風景
用水を活用した農業の様子



岩波駅での賑わいのある風景
岩波駅開業 30 周年記念行事の様子

※ スイッチバック

昔の岩波駅は珍しいスイッチバック式のホームで、電化される昭和 43 年まで設けられていました。現在も岩波駅には、その当時の面影が残っています。

3 岩波駅周辺まちづくりの設計方針

「岩波駅周辺地区まちづくり基本計画」におけるまちの将来像へのアプローチとして、「まちづくりの道しるべ」では「富士山麓の美しい風景に未来技術が溶け込む、地域が主役のまちづくり」を主題とした設計方針を設定します。

設計方針

1 富士山、愛鷹山、箱根山の すそ野に広がるふるさとの 原風景を大切にすまちづくり

- ・富士山の眺望を活かした空間づくり
- ・黄瀬川の眺望と崖線の緑を活かした空間づくり
- ・溶岩の石積みや水路など、岩波の歴史を継承する空間づくり
- ・地元産芝生など地場の技術を活用した空間づくり
- ・周辺景観と調和したデザイン・素材・色彩の選定



2 未来技術を取り入れ、住む人・働く人・訪れる人 にとって居心地と使い勝手の良い 岩波の価値を高めるまちづくり

- ・歩行者が安心安全で、気持ちよく歩き憩う広場のような道づくり
- ・パーソナルモビリティや自動運転など新しいモビリティに対応できる空間づくり
- ・カーボンニュートラルや自然エネルギー発電など地球環境にやさしい空間づくり
- ・多様な利用者や利用に対応可能な使い勝手の良い交通広場づくり



3 人と人との交流が賑わいと 心地よい公共空間を創り出す 人が主役のまちづくり

- ・市民目線・市民協働の計画づくり
- ・子どもから高齢者まで多くの市民の日常的な居場所となる場づくり
- ・来訪者も気軽に利用できる交流と賑わいの場づくり
- ・市民が公共空間を活用し主役となって活躍できる仕組みづくり
- ・新たな交流や賑わいづくりを支援する仕組みづくり



出典：<https://kashiwa.goguy.net.jp/2020/03/03/study-cafe-kashiwa-marui-studio/>

4 全体イメージ

岩波駅周辺まちづくりの設計方針を基にした全体イメージです。まちづくりデザインの実現により、岩波駅周辺のまちが魅力的な空間となることを目指します。



5 岩波駅周辺まちづくりの設計方針とエリアの考え方

P07 に示した設計方針を基に、3つのエリアに考えを整理します

岩波駅周辺まちづくりの設計方針

- 1 富士山、愛鷹山、箱根山のすそ野に広がるふるさとの原風景を大切にすまちづくり
- 2 未来技術を取り入れ、住む人・働く人・訪れる人にとって居心地と使い勝手の良い、岩波の価値を高めるまちづくり
- 3 人と人との交流が賑わいと心地よい公共空間を創り出す、人が主役のまちづくり

3) 交流の入口となるウーブン・シティ周辺エリア

ウーブン・シティへの導入部の演出及び地域住民とウーブン・シティの住民や来訪者の交流の入口となるエリア
 詳細は P19-P20 を参照

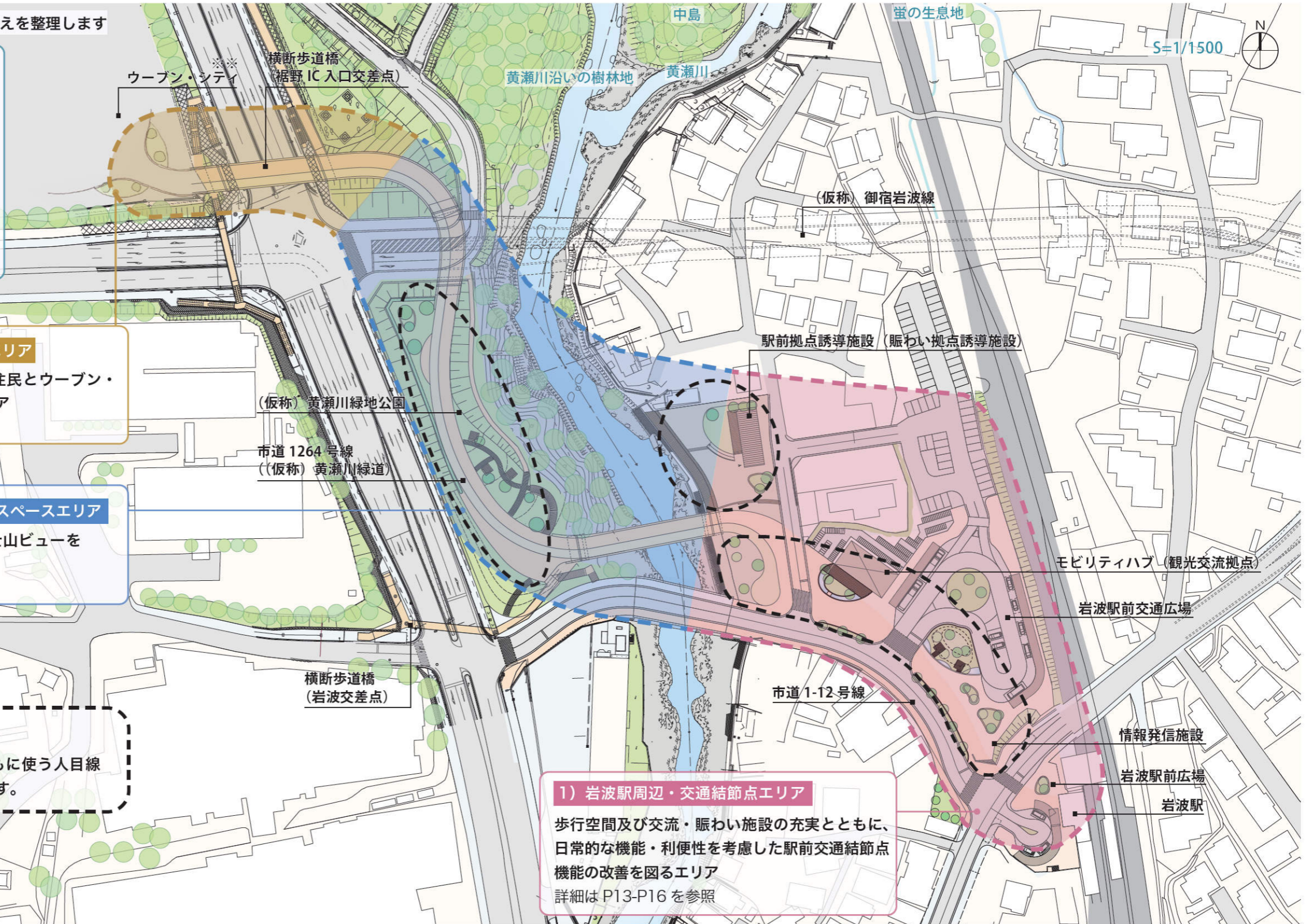
2) 自然を活かした黄瀬川及び緑道等オープンスペースエリア

黄瀬川の自然景観や黄瀬川沿いの遊歩道や富士山ビューを楽しむエリア
 詳細は P17-P18 を参照

自由に使える公共空間

岩波駅周辺まちづくりの設計方針の実現とともに使う人目線で使い勝手や居心地が良い公共空間を目指します。

- 凡例
- 地域資源
 - 施設名称



1) 岩波駅周辺・交通結節点エリア
 歩行空間及び交流・賑わい施設の充実とともに、日常的な機能・利便性を考慮した駅前交通結節点機能の改善を図るエリア
 詳細は P13-P16 を参照

※「駅前拠点誘導施設(賑わい拠点誘導施設)」「モビリティハブ(観光交流拠点)・情報発信施設」については民間活力を活用した整備を検討します。

※ウーブン・シティはトヨタ自動車(株)が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画に含まれていません。

6 エリアごとの設計方針

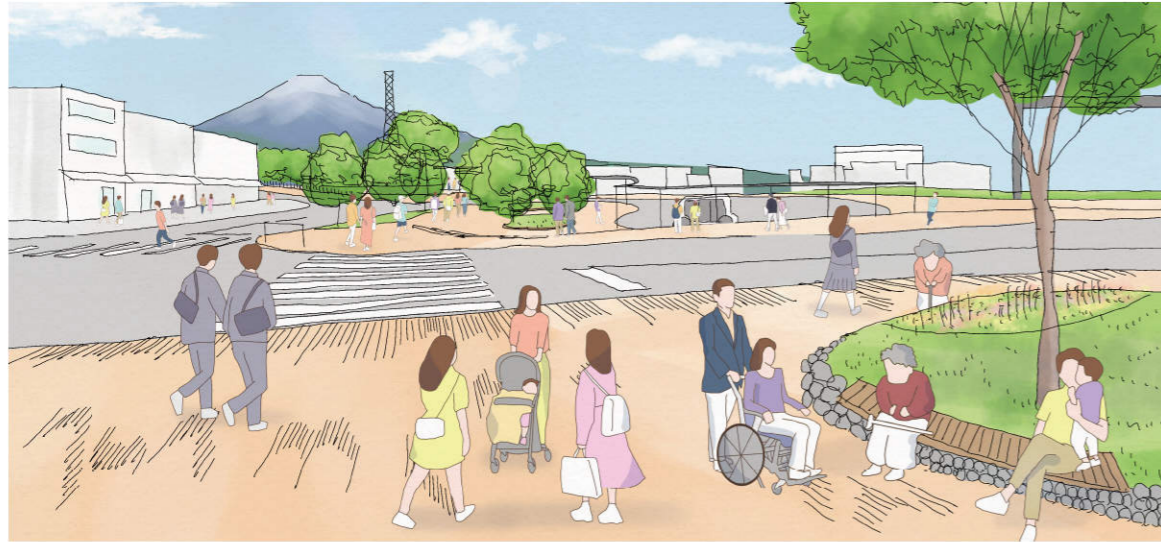
1) 岩波駅周辺・交通結節点エリア

歩行空間及び交流・賑わい施設の充実とともに、

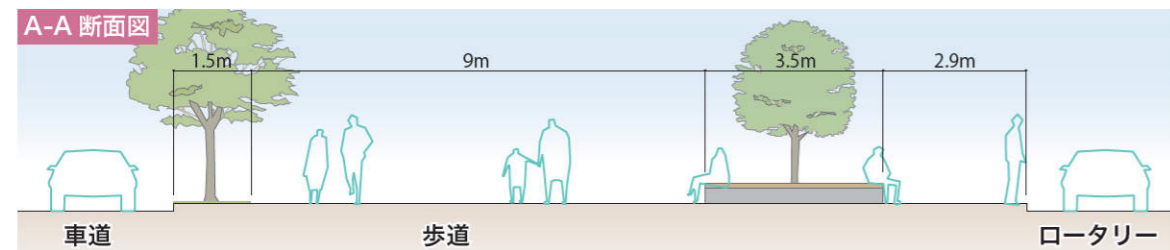
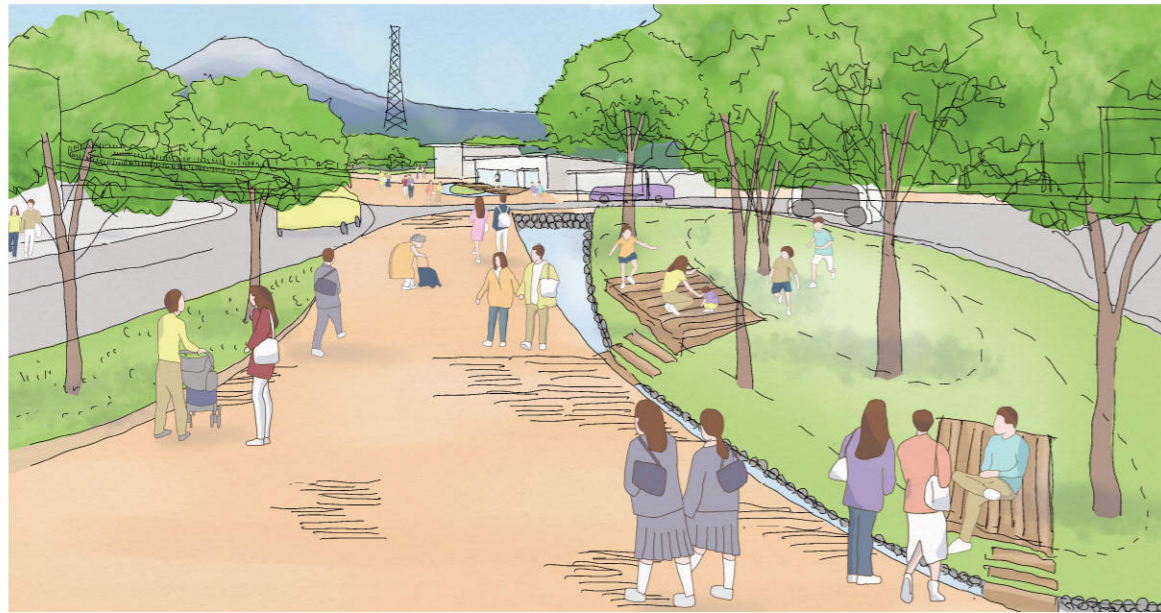
日常的な機能・利便性を考慮した駅前交通結節点機能の改善を図るエリア

(岩波駅前広場、モビリティハブ(観光交流拠点)、情報発信施設、岩波駅前交通広場)

パース1 岩波駅から真っすぐ伸びる歩行者動線の先に富士山の眺望が自然と目に入る空間づくり



パース2 原風景として残る石材(溶岩)や用水を身近に感じられる憩いの空間づくり

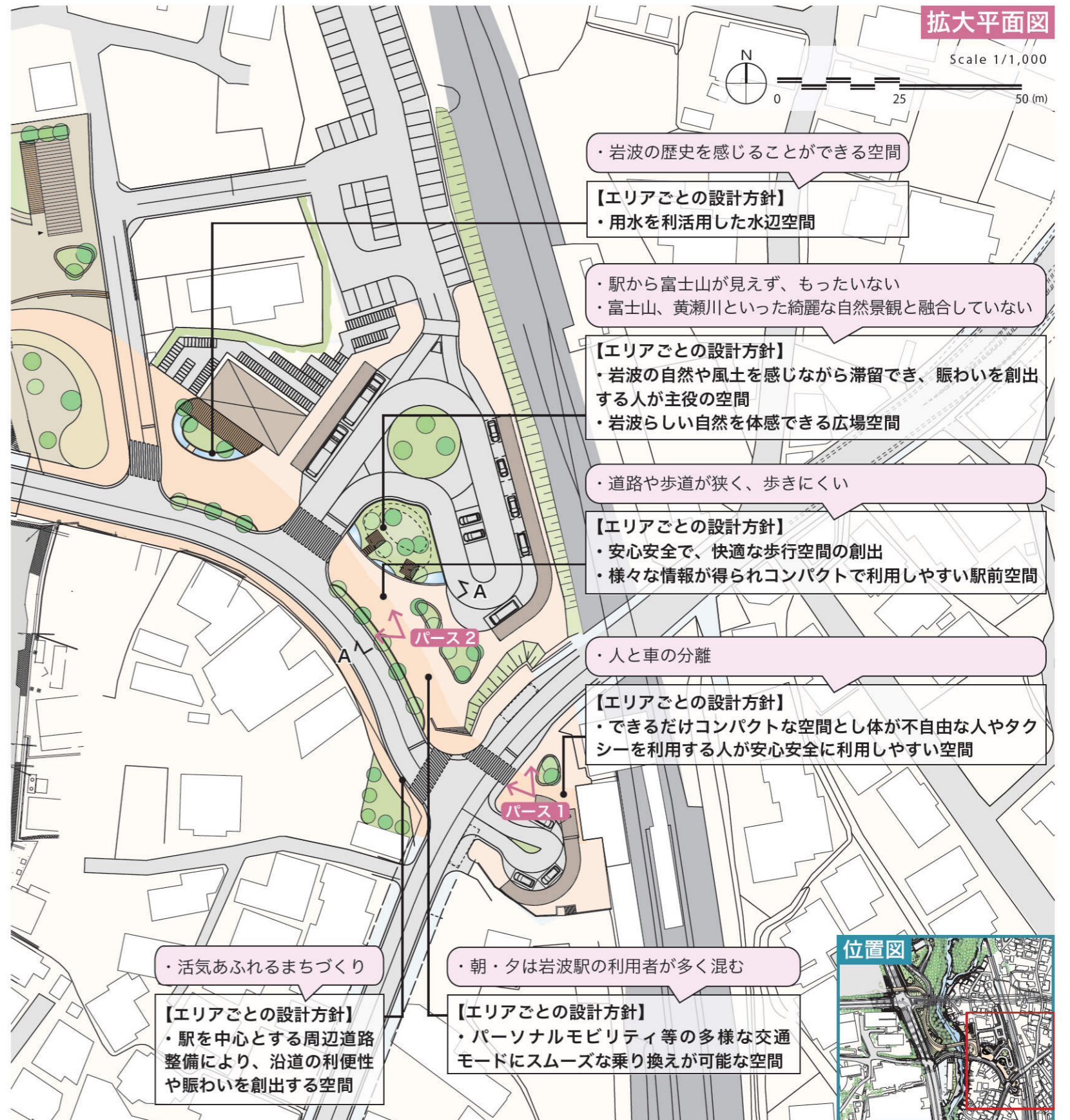


※図中の数値は現時点の参考値であり、変わる場合があります。

※レイアウトイメージ

拡大平面図

Scale 1/1,000



※拡大平面図内の吹き出しは、岩波駅周辺地区まちづくりワークショップの参加者の方から頂いた意見を記載しています。

6 エリアごとの設計方針

1) 岩波駅周辺・交通結節点エリア

歩行空間及び交流・賑わい施設の充実とともに、

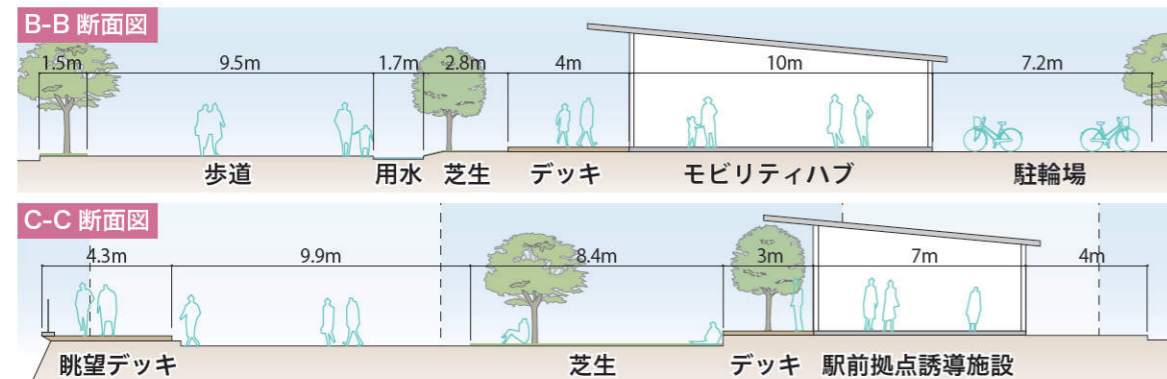
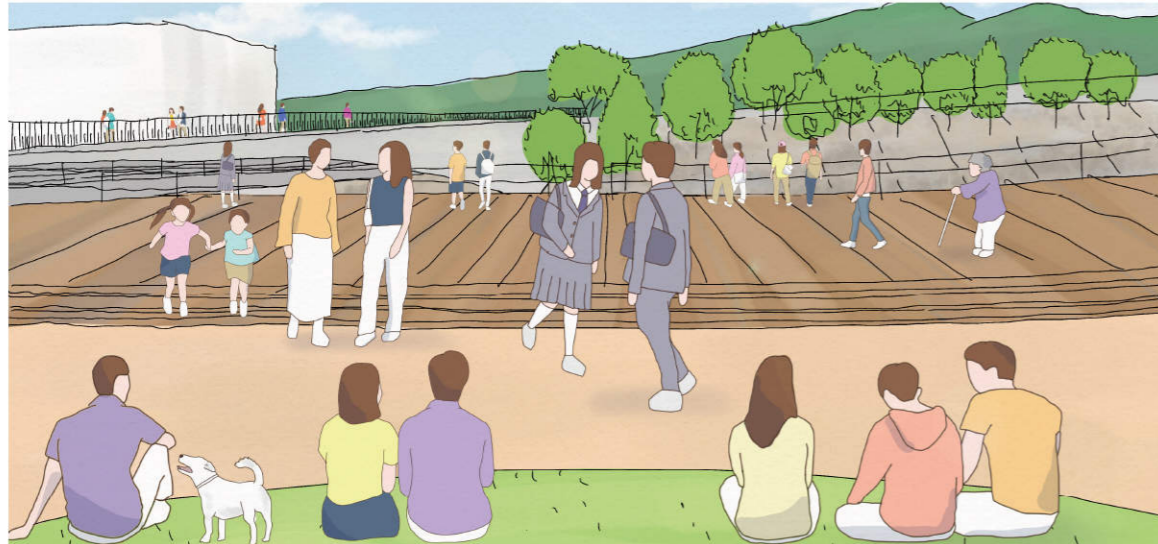
日常的な機能・利便性を考慮した駅前交通結節点機能の改善を図るエリア

(駅前拠点誘導施設(賑わい拠点誘導施設)、市道1-12号線)

パース3 モビリティのハブ(拠点)を含めた新たな交流が生まれる空間づくり



パース4 勢いよく流れる黄瀬川の原風景を身近に感じられる新たな賑わい空間づくり



※図中の数値は現時点の参考値であり、変わる場合があります。

※レイアウトイメージ

拡大平面図

Scale 1/1,000



※拡大平面図内の吹き出しは、岩波駅周辺地区まちづくりワークショップの参加者の方から頂いた意見を記載しています。

6 エリアごとの設計方針

2) 自然を活かした黄瀬川及び 緑道等オープンスペースエリア

黄瀬川の自然景観や黄瀬川沿いの遊歩道や富士山ビューを楽しむエリア
(市道 1264 号線 ((仮称) 黄瀬川緑道)、(仮称) 黄瀬川緑地公園)

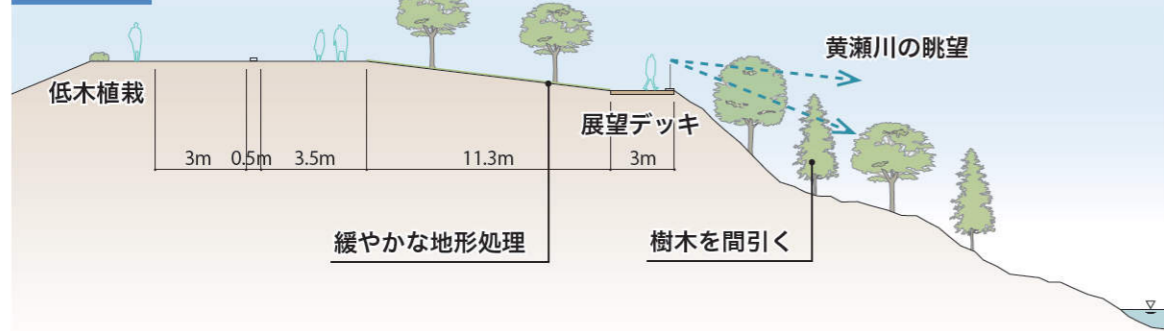
パース 5 (仮称) 黄瀬川緑地公園を気持ちよく移動しながら、富士山を眺望できる空間づくり



パース 6 地形を活かした、歩行者や地域住民がふと立ち寄りたくなる自然豊かな空間づくり



D-D 断面図

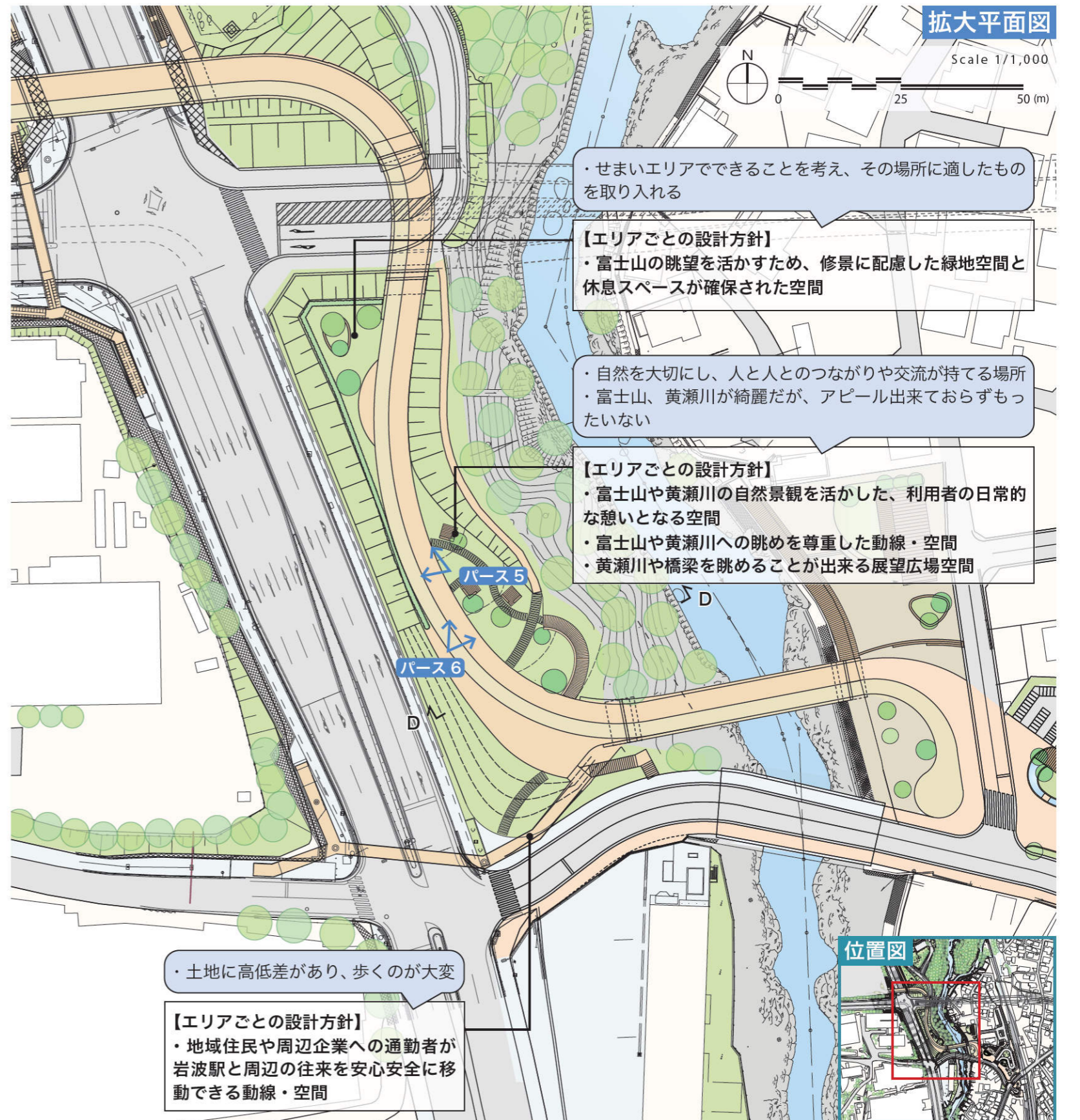


※図中の数値は現時点の参考値であり、変わる場合があります。

※レイアウトイメージ

拡大平面図

Scale 1/1,000



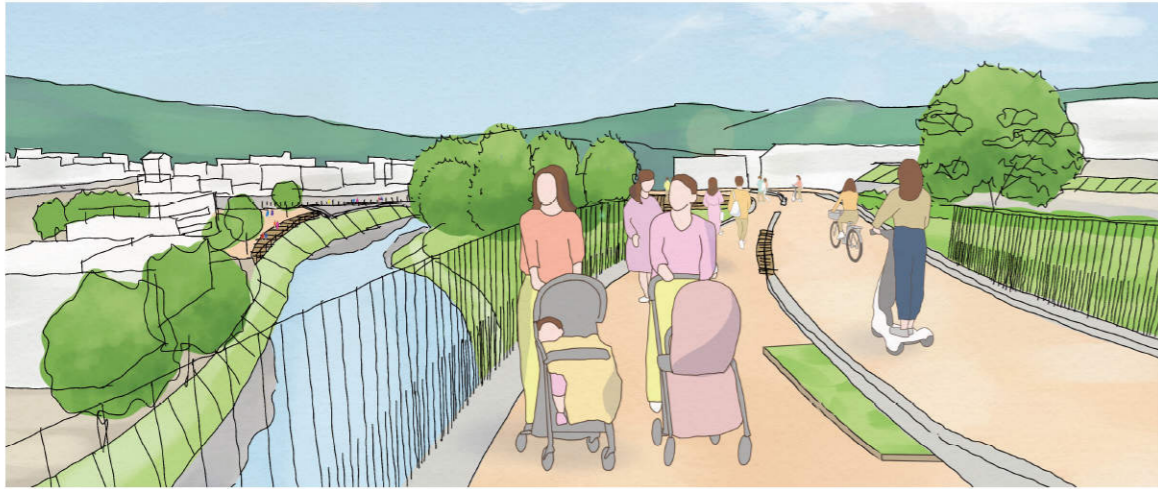
※拡大平面図内の吹き出しは、岩波駅周辺地区まちづくりワークショップの参加者の方から頂いた意見を記載しています。

6 エリアごとの設計方針

3) 交流の入口となる ウーブン・シティ周辺エリア

ウーブン・シティへの導入部の演出及び地域住民と
ウーブン・シティの住民や来訪者の交流の入口となるエリア
(横断歩道橋 (裾野IC入口交差点))

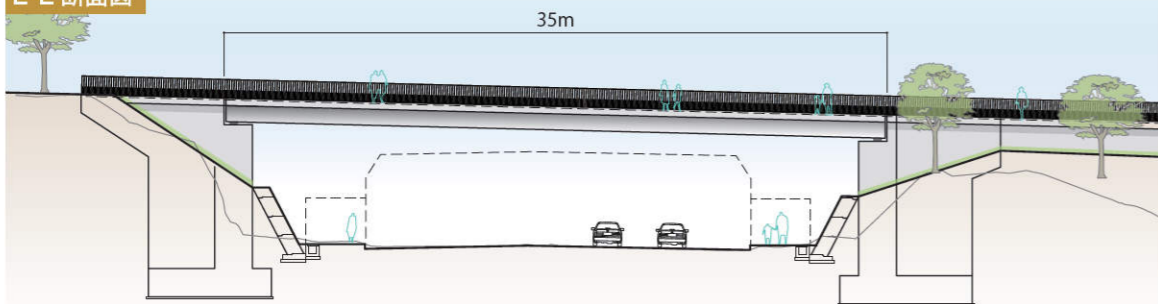
パース7 黄瀬川などの豊かな自然を眺めながら安全に岩波駅まで誘う空間づくり



パース8 次世代モビリティも走行可能な空間づくり



E-E 断面図

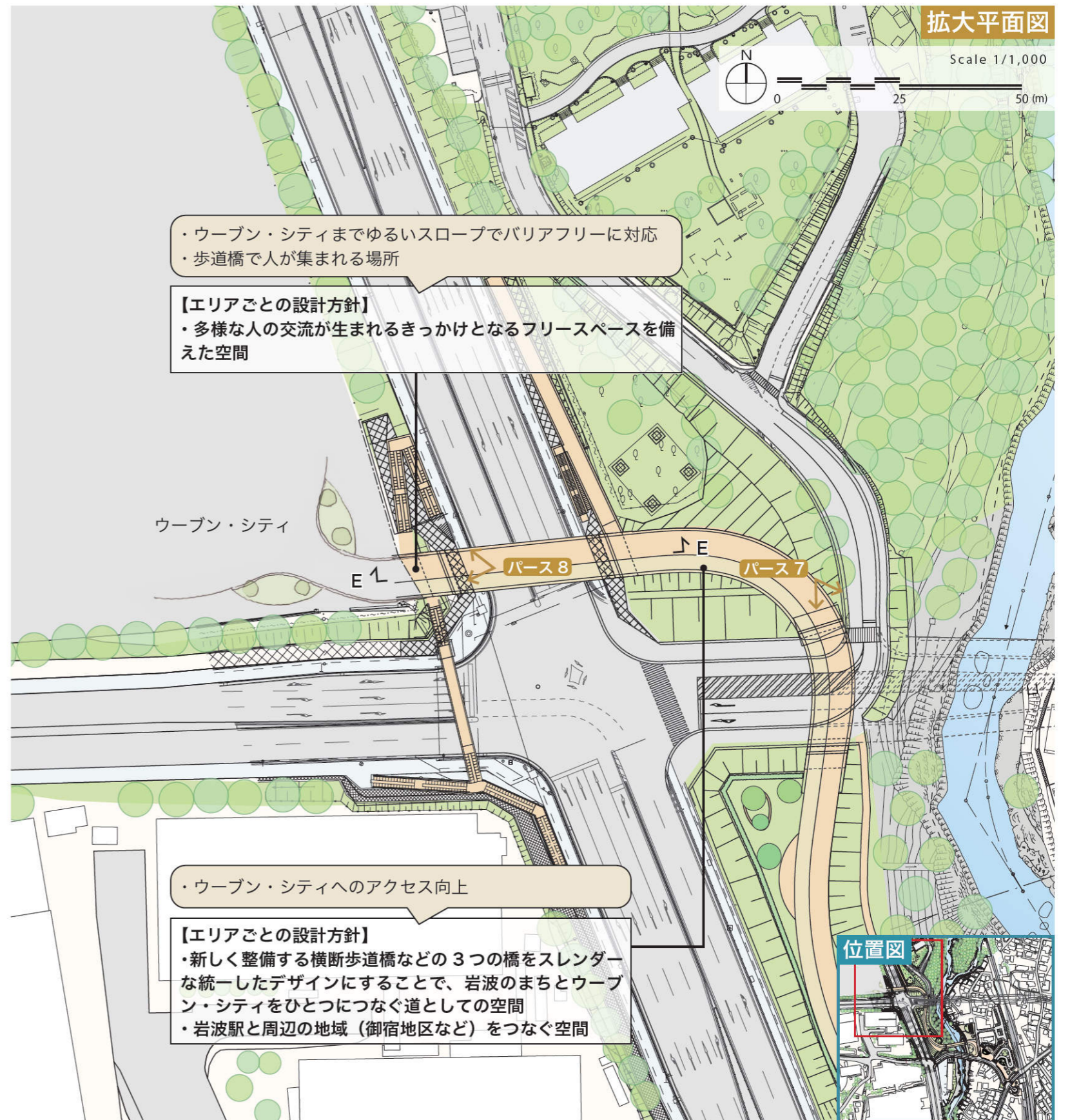


※図中の数値は現時点の参考値であり、変わる場合があります。

※レイアウトイメージ

拡大平面図

Scale 1/1,000



- ・ウーブン・シティまでゆるいスロープでバリアフリーに対応
- ・歩道橋で人が集まれる場所

【エリアごとの設計方針】

- ・多様な人の交流が生まれるきっかけとなるフリースペースを備えた空間

ウーブン・シティ

パース8

パース7

- ・ウーブン・シティへのアクセス向上

【エリアごとの設計方針】

- ・新しく整備する横断歩道橋などの3つの橋をスレンダーな統一したデザインにすることで、岩波のまちとウーブン・シティをひとつにつなぐ道としての空間
- ・岩波駅と周辺の地域 (御宿地区など) をつなぐ空間

位置図



※拡大平面図内の吹き出しは、岩波駅周辺地区まちづくりワークショップの参加者の方から頂いた意見を記載しています。
ウーブン・シティはトヨタ自動車 (株) が建設を進める実証実験の街であり、裾野市の整備計画に含まれていません。

7 まちづくりとしての一体感を創出するためのデザインコード

岩波駅周辺にふさわしい良好な景観を形成するために、目標と目標を達成するために重要と考える空間要素について方向性を示します。また、岩波駅周辺のまちづくりにあたっては、市の景観計画や屋外広告物のルール、静岡県のふじのくに色彩・デザイン指針の考えも踏まえたものとしします。

	目標		
	目標1 岩波らしい風景をつくるために	目標2 未来技術を取り入れた 一体的なまちなみ創出のために	目標3 人が主役の心地よい 空間づくりのために
舗装		素材の統一	温かみある素材の利用
柵・手すり	透過性への配慮	素材の統一	
照明	配置の工夫	落ち着いた夜の夜間景観	
ストリートファニチャー 道路附属物		素材の統一 色彩の統一	居心地への配慮 温かみのある素材の利用 道路附属物の集約・配置の配慮
擁壁等	溶岩などの利用		土や緑による地形処理

公共空間構成要素

■未来技術の取り組み

「岩波駅周辺まちづくりの道しるべ」では岩波の価値を高めるまちづくりを目指し、未来技術を活用していく取り組みを考えています。

①大切に地域資源を未来に受け継ぐこと

岩波や裾野市、静岡県東部等、地域の素材や技術、産業の特性を活かすことなどを検討していきます。

②未来の環境負荷の低減に寄与すること

再生材や廃棄材といった素材の活用や再生品の採用、環境負荷の少ない移動手段への対応・利便性向上などカーボンニュートラルの取り組みを検討していきます。

③持続可能なまちやひとを育むこと

まちづくりの主役である市民の方が継続的な活動や空間を柔軟に活用できる設えや仕組みを検討し、市民の方が考え、話し、楽しんで参加できるコミュニティの醸成に繋げていくことを目指します。

例：「パーソナルモビリティ」



環境負荷が少ない次世代型モビリティの導入を図ります。また、これに対応したハード整備にも取り組んでいきます。

例：「竹チップ舗装」



裾野市内で竹林整備等の環境保全、コミュニティ醸成の事業を行う団体の協力を得て、地域で発生した竹チップを混ぜた舗装の採用により環境負荷の低減を図っていく未来技術。

目標1 岩波らしい風景をつくるために

地域資源である溶岩や用水路を擁壁や広場の一部として活用し、ここにしかない岩波ならではの風景を創出します。



例：水辺を活かした広場空間



例：溶岩を利用した擁壁

富士山や水路の風景など、あくまで岩波の風景を尊重し、引き立てるように、フェイスラインや柵などの付属物は、スレンダーな橋梁に溶け込み、賑わいを引き立たせる透過性の高いデザインを選定します。



例：スレンダーな橋梁

7 まちづくりとしての一体感を創出するためのデザインコード

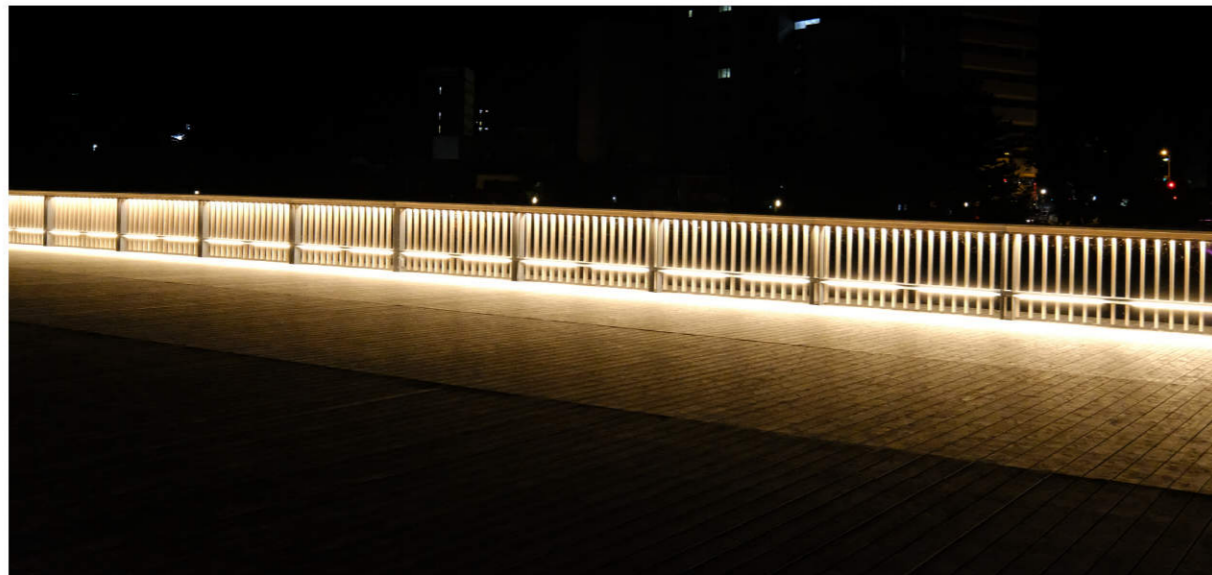
目標2 未来技術を取り入れた一体的なまちなみ創出のために

舗装は、暖かみのある色彩とすることで、周辺の黄瀬川の溶岩といった風景に溶け込むような素材を選定します。岩波駅前広場～市道1264号線（(仮称)黄瀬川緑道）、橋梁など、柵やサインなどの付属物の色彩の統一を図ります。



例：ページュの暖かみのある舗装

安全で安心な照明を整備し、岩波駅前広場などの滞留スペースにはあかり溜まりをつくることで、落ち着いた夜の景観を演出します。照明柱は最低限必要なものとし、ベンチに付属させたり、樹木をライトアップすることで魅力的な夜景を創出します。また、照明の色温度を暖かみのある電球色を用いることを検討し、一体的な夜景を創出します。



例：高欄に付属させた照明

上記の舗装や照明とともに建築物や土木構造物の素材選定においては、環境負荷の低減に寄与する未来技術が活かされた素材の導入を見据えていきます。

目標3 人が主役の心地よい空間づくりのために

駅前拠点誘導施設やモビリティハブで建築物が計画される場合は、道路に面して、大きな開口部やオープンスペースを設けるなど、屋内外で一体的な利用ができるような工夫を行い、賑わいや空間の広がり創出を目指します。また、外壁や屋根等の色彩について、色彩や素材に留意し、周辺景観との調和を図ります。



例：道路に開かれ一体的に利用される空間

既存樹木は、景観資源としてできる限り保全・活用し、その継承に努めます。新たな植栽は、岩波駅周辺の豊かな自然景観と馴染むよう、地元の芝生などの植栽を中心に選定し、四季折々の風景を楽しめるように配慮します。



例：既存樹を取り入れた広場空間

賑わい創出のために、キッチンカーやテントなどが設置できる空間とするとともに、利活用時の機能性（水道・電力等）を考慮します。

サイン類については全体的な配置を検討するとともに、色彩や素材についても留意し、周辺景観との調和を図ります。また、サイン類内の文字やピクトなどを統一し、分かりやすさにも配慮します。

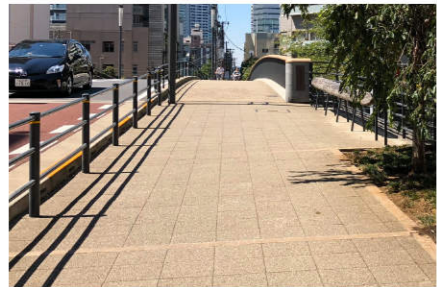
7 まちづくりとしての一体感を創出するためのデザインコード

P21-24 に示した目標についてより具体的な素材や色彩について以下に示します。

公共空間構成要素

舗装

舗装材は景観上ベースとなる重要な素材です。富士山を中心とした山並みとの調和を図るため、暖色系の温かみのある素材を基本とします。具体的には自然の骨材の色合いが見えるような「洗い出し舗装」や「脱色 As」などを検討します。



○ 良い例：橋梁部と歩道部の舗装の統一



○ 良い例：自然の骨材が見える舗装



× 悪い例：顔料系の舗装

柵・手すり

立ち上がりとして見えてくる柵や手すりは岩波の風景を阻害せず引き立たせるために、透過性の高いものとし、具体的には金属製を中心としたシンプルで繊細な構造を基本とします。色彩は落ち着いた色を基本とし、ステンレス等、光の反射が多い素材の仕様は控えます。



○ 良い例：透過性の高い柵



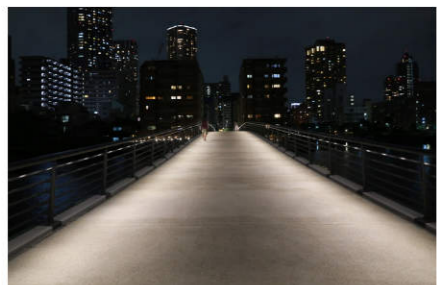
○ 良い例：落ち着いた色の柵



× 悪い例：周囲から目立った明るい柵

照明

照明は機能的であるとともに、夜間景観を演出する重要な要素です。岩波に馴染む落ち着いた夜間景観を創出するために、照明は色温度を抑え、暖色系を中心とした温かみのあるものとし、また、照明柱の立ち上がりにより眺望を阻害しないように配置の工夫や、手すりやベンチなどに照明器具を組み込むなどの工夫も行います。



○ 良い例：柵に付属させた照明



○ 良い例：ベンチに付属させた照明

ストリートファニチャー 道路付属物

ベンチなどのストリートファニチャーは滞留空間の中でひとの居場所となる重要な要素です。触れ易い、座りたくなるような素材（木材やセラミック等）を選定し、居心地に配慮します。岩波駅周辺に置かれるベンチについては、座面の素材を統一し、まちなみの一体感を創出することを目指します。公共空間以外の民間敷地についても協力が得られるよう努めます。

電線類の地中化に伴って設置される地上機は、道路上に極力配置せず、周辺の公共空間を利用して配置するように配慮します。また、道路付属物（標識や案内サイン等）についても色彩を統一し、景観としての一体性の確保を目指します。



○ 良い例：温かみのある木製ベンチ



○ 良い例：周辺環境に配慮した色彩のサイン

擁壁等

高低差が複雑な敷地であるため、場所に応じて擁壁を用いる可能性がありますが、なるべく地形処理での擦り付けを基本として、人工物を減らすように心がけます。必要に応じて出てくる擁壁や腰壁、縁石については、溶岩などの地元の素材を活用することで、岩波らしい風景の創出に寄与することを意識します。



○ 良い例：擁壁を出さない地形処理



○ 良い例：現場で出た石材の再利用

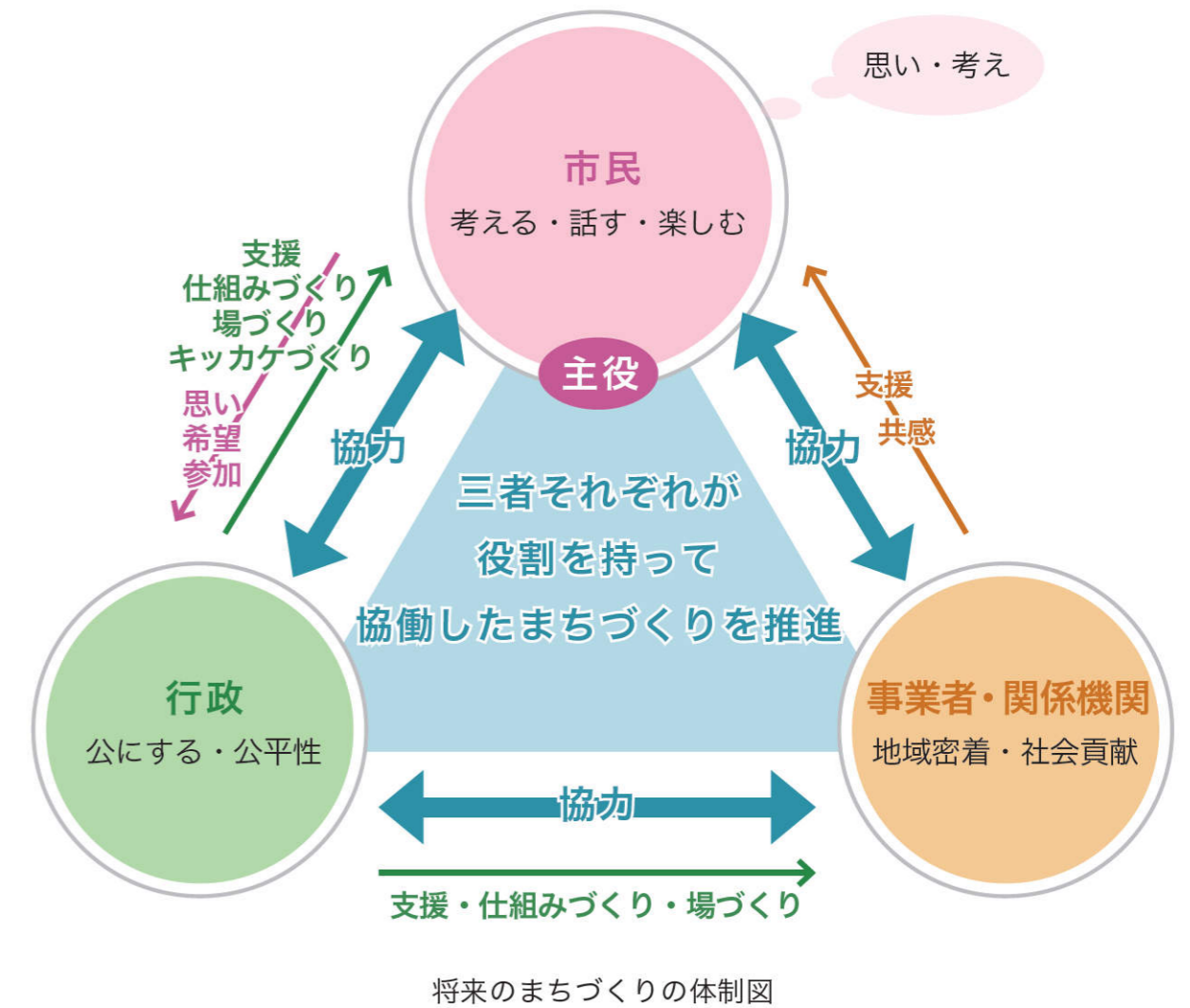
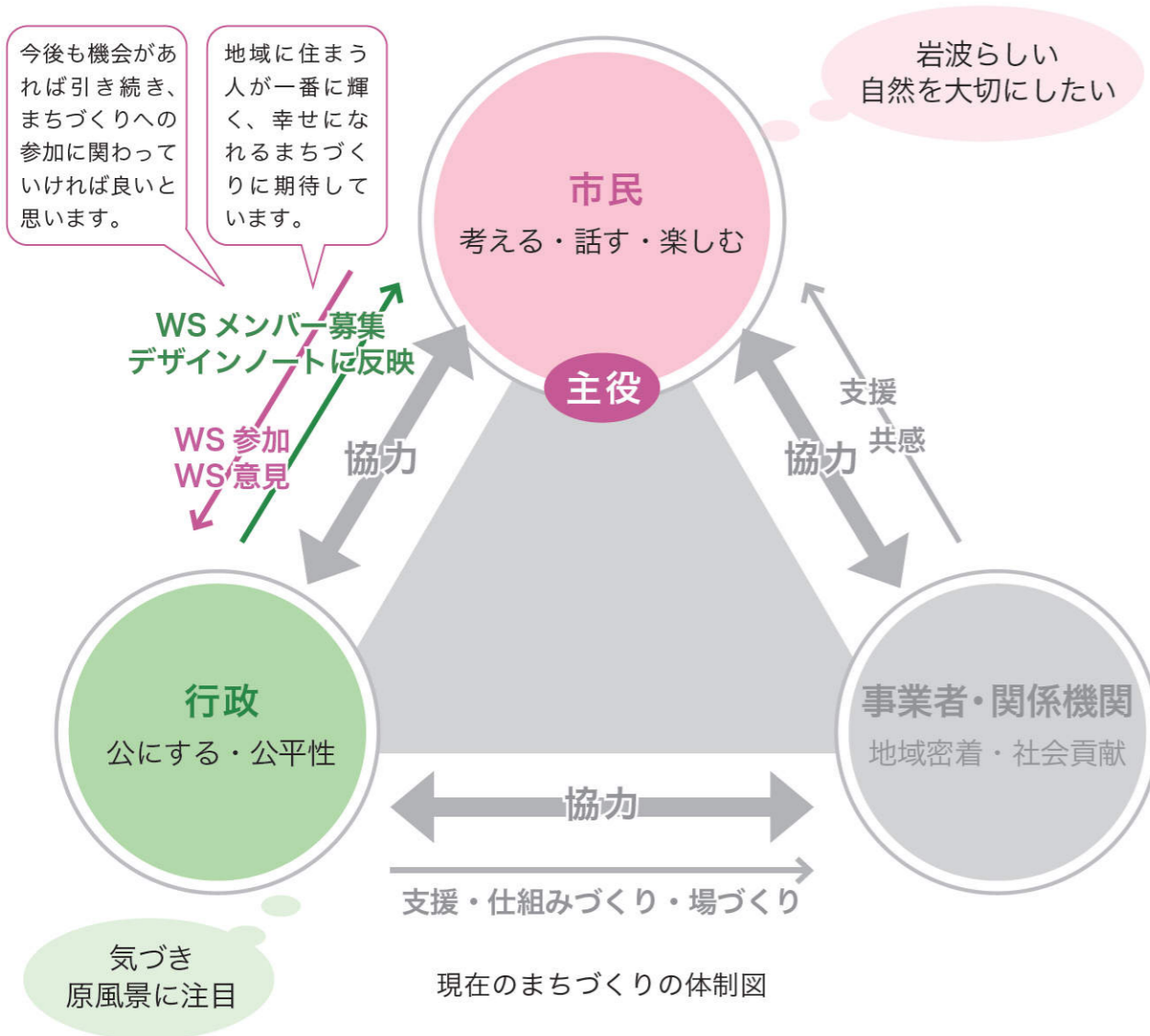


○ 良い例：地元の石材

8 まちづくりデザインの実現に向けて

①協働のまちづくりを目指して（市民協働のまちづくり）

岩波駅周辺のまちづくりでは、駅周辺に住んでいる人、駅を利用する人、駅周辺の施設を利用する人など人が主役のまちづくりを目指しています。まちづくりデザインを実現するためには、使う人の目線で使い勝手や居心地が良い空間、賑わいを創出する空間について、計画・整備し、活用・維持管理まで含めて関わる人それぞれが協力して取り組んでいくことが大切です。

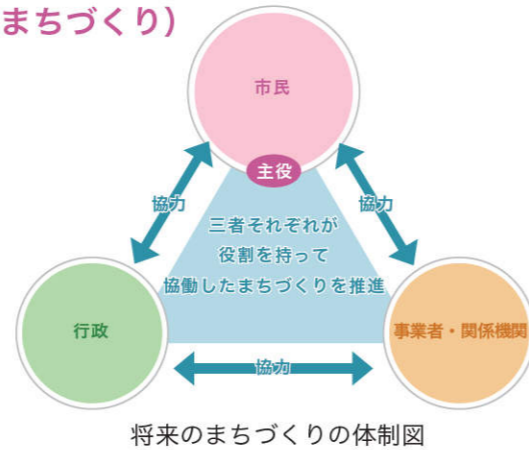


8 まちづくりデザインの実現に向けて

■市民による考案と発意

②市民が主役の交流と賑わいの創出（市民が主役のまちづくり）

交流と賑わいは場所（ハード）だけではなく、その場所が実際に使われ、交流と賑わいを生み出すための市民の考案と発意（ソフト）を大切にします。また、これを実現するために、使う人（市民等）が計画・設計段階から「まちの空間をどう使うか」を考え、試して、再考して、良いものに改善を図りながら取り組んでいくチャレンジを尊重します。そのため、市民自らが空地を活用した社会実験（キッカケ）や様々な取り組み（イベントや清掃活動等）を通じて交流や賑わいの創出等に向けた活動に積極的に参加・応援・協力します。



③魅力的な景観を維持向上させる市民の意識（「まちづくりの道しるべ」への共感）

魅力的な景観を形成するためには、行政による公共空間の整備はもとより、周辺にある地域資源や建築物、工作物等に対する景観への配慮も大切です。民間施設の建築等に際しては、「まちづくりの道しるべ」で示す考えにご理解をいただき、今後の市民意識の醸成に繋げるとともに景観形成の向上を目指します。

■事業者・関係機関の役割

④民間の活力による空間づくり

柔軟で持続的な管理運営と魅力向上を図る上で「駅前拠点誘導施設（賑わい拠点誘導施設）」、「モビリティハブ（観光交流拠点）」の整備や活用のほか、周辺の公共空間の一部管理運営について民間活力の導入を検討していきます。参入事業者候補には「まちづくりの道しるべ」に共感していただき、計画・設計段階から関わっていただくことで、岩波の魅力を活かし交流と賑わいを創出する空間づくりに協力して取り組んでいきます。

⑤民間企業とのつながり

岩波駅周辺のまちづくりを通じ、住民や来訪者とのつながりを高めていくためには、協働してまちづくりに取り組んでいくことができる民間企業とのつながりをもつことが重要になります。市民と民間企業、行政と民間企業、民間企業間での連携・協力ができる取り組みが求められます。

⑥まちづくりデザインの実現に対する深化の必要性

岩波駅周辺のまちづくりの実現に向けては、より仔細な考え方や至った経緯を記した「岩波駅周辺まちづくりの道しるべ」技術編」で留意する点の理解を深めること、さらに引継いでいくことで一貫性のある事業とすることが必要と考えます。設計・施工・維持管理・活用等、まちづくりが進展していく様々な場面で継続的に綴り続けたいと考えています。

■行政の役割

⑦アドバイザー組織（専門家の意見）

岩波駅周辺のまちづくりでは、まちの一体感を創出するために様々な空間を構成する要素に思いを巡らしています。それらを具体的に実現するために、デザインに造詣が深い専門家のアドバイスを心得を進めることを検討しています。

⑧岩波駅周辺まちづくり推進会議（まちづくりのチェック）

岩波駅周辺まちづくり推進会議では、「まちづくりの道しるべ」で描いたデザインの方向性にあった設計・施工となっているかの確認だけでなく、ウーブン・シティの整備による周辺環境の変化に応じたまちづくり全体の進捗管理や利活用等に向けた取り組みなどの意見交換を継続的に行っていきます。

■市民や事業者が主体的に取り組んでいる事例

・姫路・大手前通り魅力向上プロジェクト

姫路駅から姫路城へと伸びる大手前通りでは、沿道企業を中心とした協議会が自ら企画し、社会実験を実施するなど、行政との連携を継続しています。岩波駅周辺においても、富士山への眺望を大切にするとともに、民間企業と協力したまちづくりを目指します。



出典：https://hbplan.jp/

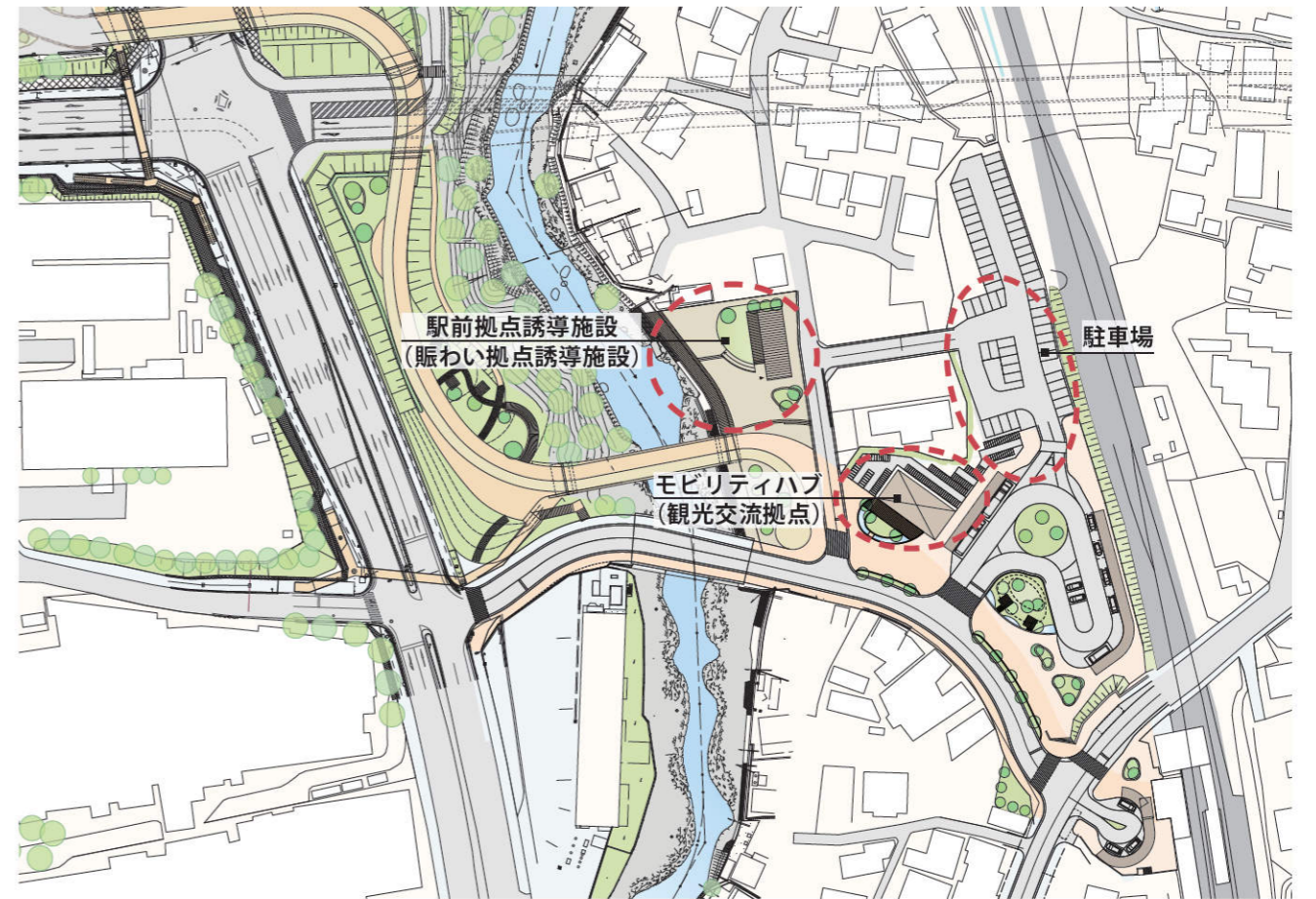
・有田川町流！住民主体のまちづくり

ワークショップ等をきっかけに若者や女性を中心としたまちづくり団体が立ち上がり、サポート役としてアメリカポートランド市開発局職員やポートランドの現地企業陣が加わっています。岩波駅周辺においても、ウーブン・シティとの交流では外国文化の触れ合いが想定されます。



出典：https://www.town.aridagawa.lg.jp/index.html

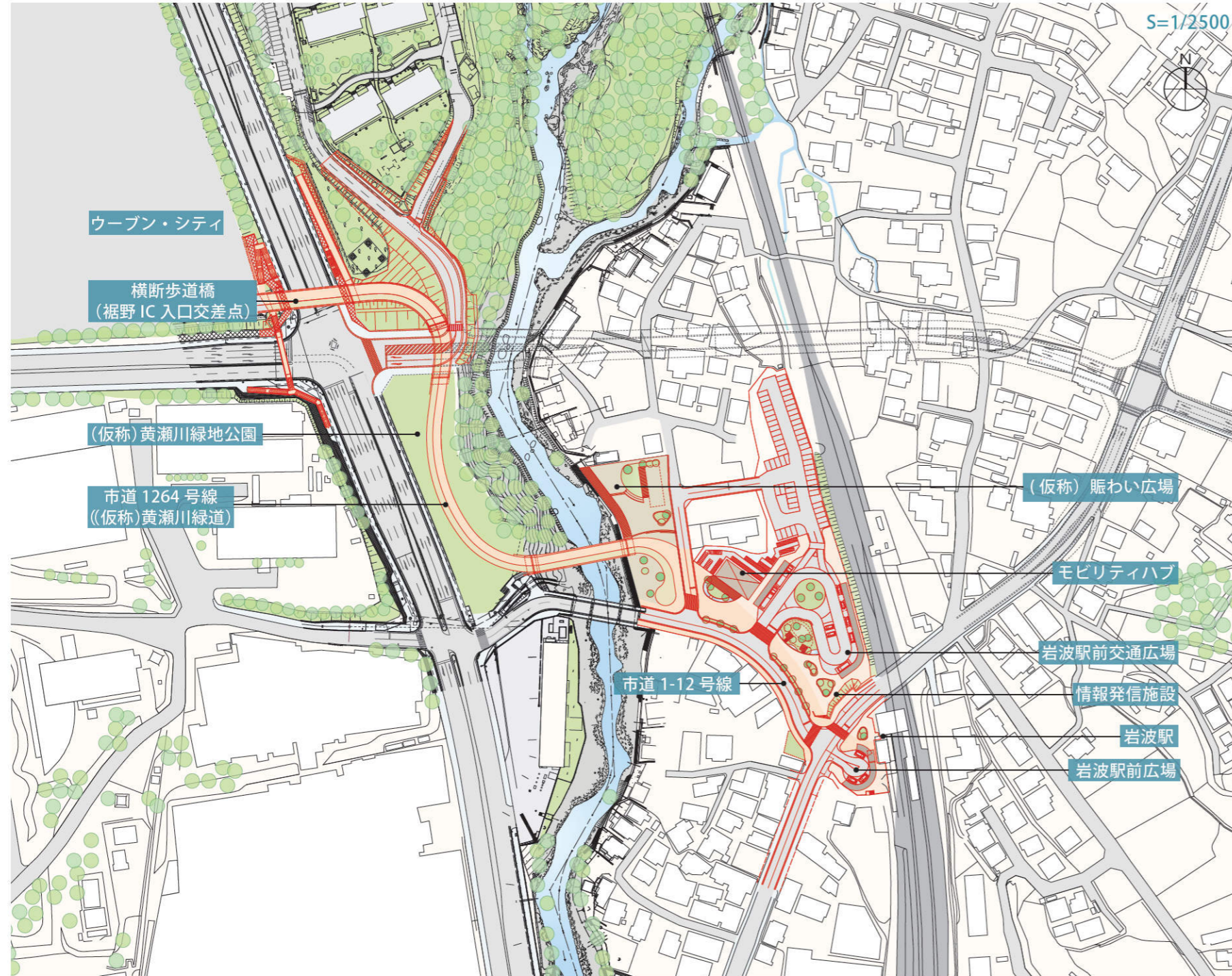
■民間活力の導入を検討する範囲



9 段階整備計画図（参考）

岩波駅周辺のまちづくりは、段階的な計画により整備を推進していきます。短期整備計画の施設整備の完成を見据えて優先的に整備する施設を下図に示します。これらは、岩波駅周辺地区まちづくり基本計画の見直し年次である 2026 年度の完成を目標としていきます。「岩波交差点の横断歩道橋」「富士見橋」「駅前拠点誘導施設（賑わい拠点誘導施設）」は、2026 年度以降の整備を検討していきます。

また「駅前拠点誘導施設（賑わい拠点誘導施設）」「モビリティハブ・情報発信施設」については民間活力を活用した整備を検討します。



※段階整備計画図については、変更となる可能性があります。

■ 段階的整備計画の事業工程

整備項目		2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度以降
市民協働	まちづくり協議	地域住民、周辺企業等の参加によるまちづくり協議 (やりたいこと整備内容)				継続
	賑わい創出の取り組み	地域住民、周辺企業等の参加によるイベントの開催 各種実証等				継続
岩波駅前交通広場		→				
岩波駅前広場		→				
モビリティハブ 情報発信施設		→				
(仮称)賑わい広場		まちづくり活動広場整備				
市道 1-12 号線		→				
市道 1264 号線 ((仮称)黄瀬川緑道)		→				
横断歩道橋 (裾野 IC 入口交差点)		→				
(仮称)黄瀬川緑地公園 (緑地・交流施設)		南側緑地公園				
進捗管理 (計画見直し)		ウーブン・シティの一部オープンによる影響を踏まえた見直し				
デザインの整合性確認		→				
岩波駅周辺まちづくりの方向性確認		→				

10 岩波駅の広域案内図（参考）

